

# 沈黙に向き合う

沖繩戦聞き取り47年

(81)

石原 昌家

県平和祈念資料館展示改ざん問題で、沖縄県の三役が関与の事実を認めて謝罪したという報道の前に1999年10月5日の琉球新報朝刊社会面では、謝罪に追いつかぬ決定的な情報を記事化していた。

## 秘密のベール

監修を終えた展示の「『変更要求』業者、メモに明記／対処に苦慮」という見出し記事で、ついに秘密のベールという

## 知事自ら県民に釈明を



銃を持たない日本兵の模様が製作されていたことを写真付きで報じる10月12日付の琉球新報朝刊一面

### 銃持たない日本兵製作

「見え消し」業者に渡る

始まりは知事発言

責任は現場に押し付け?

いて「慰安所マップは展示しない方向で再検討すること」と「虐殺は犠牲」と用語を変更することなど十八項目にわたる変更内容が記されている。変更内容に加え、業者の説明も記されている。

## 委員変更を示唆

「新知事体制により、一方、沖縄タイムス朝刊施工進行中の平和祈念(資

## 平和祈念資料館問題 ⑭

# 銃不所持の日本兵発注 業者、指示受け対処に苦慮

「監修委員入れ替え」という伝家の宝刀を抜いたと見え、意に背く仕事を押付けられ、苦悶の表情がうかがえる。監修委員にはそれをおくびにも出さなかった。

料館に対し、設計まで遡った展示内容変更の要望がでてきています」と県側からの変更要求が出ていることとを指摘している。さらに「特に文化国際局長の指摘が強く」とあり、局長の変更指示であることを説明した上で「対処に苦慮しています」と業者側の困惑した心境が吐露されている。

「『変更要求』業者、メモに明記／対処に苦慮」という見出し記事で、ついに秘密のベールという

の場で、知事らが「県政は変わったのに展示が変わっていない」「サミットで全

の考えが異なることや、思われるためには新しい監修委員を入れるべきでしょう。国家に対する認識など基本的な認識(現監修員と新県政の考え方)が全く異なる。この資料館は永久に残るわけ。展示作業そのものをストップしたらどうか」

## 「民衆の敵」

新資料館は、まるで風前のともしびであるかのような縮領知事と牧野副知事の発言だ。

99年10月12日付の琉球新報朝刊2面には「銃持たない日本兵製作」と写真が載っている。7月15日にガマ

「見え消し」業者に渡る

「『変更要求』業者、メモに明記／対処に苦慮」という見出し記事で、ついに秘密のベールという

の場で、知事らが「県政は変わったのに展示が変わっていない」「サミットで全

の考えが異なることや、思われるためには新しい監修委員を入れるべきでしょう。国家に対する認識など基本的な認識(現監修員と新県政の考え方)が全く異なる。この資料館は永久に残るわけ。展示作業そのものをストップしたらどうか」

新資料館は、まるで風前のともしびであるかのような縮領知事と牧野副知事の発言だ。

99年10月12日付の琉球新報朝刊2面には「銃持たない日本兵製作」と写真が載っている。7月15日にガマ

（次回は知事コメントなどに触れる）